



特定非営利活動法人パクト

活動概要

- ・親子のための居場所・遊び場『みちくさハウス』の運営
- ・工作や自然遊び、調理などの子ども向け体験プログラムの企画・実施
- ・市内外からのボランティアのコーディネート

活動拠点：岩手県陸前高田市

活動内容

解決したい社会課題

- ・震災後、子どもの居場所、体験の場や選択肢が少ない
- ・子育て世代の居場所（息抜きできる場所や時間）が少ない
- ・人口減少および次世代のまちの担い手（若年層）の地元離れ

助成前の課題

- ・震災後、子どもが子どもらしく過ごせる居場所や、「生きる力」を育む体験・交流の場が減少した
- ・震災後、子育て世代の保護者がゆっくり過ごせる場所や時間が減少した
- ・ボランティア活動やまちづくりなどに意欲のある地元の若者が活躍する場が少ない
- ・大学進学、就職などによる地元の若年層の人口流出が増大し、過疎化が進んでいる



助成後の変化

- ・コミュニティスペース『みちくさハウス』を運営。2年間でのべ1,670名の子どもが来所し、工作や自然遊び（木登り、川遊び、森遊び等）、調理体験などの活動に参加した
- ・のべ384名の保護者とのべ52名の地域住民が来所し、語り合ったり、活動に参加した
- ・のべ27名の地元中学生が、活動にボランティア参加し、子どもや保護者、地域住民と交流した
- ・のべ166名の大学生（市外在住）が活動参加のため陸前高田を訪れ、交流人口の増加に寄与した



今後の展望

- ・「みちくさハウス」の運営を継続し、子どもたちが自らの個性を發揮しながら心身ともに健やかに成長するためのサポートを行う
- ・地域で子どもを見守る環境づくりに貢献し、「復興支援」という枠を超えた「市民活動」となることを目指す
- ・陸前高田への交流人口を増やし、地元住民と市外から来る若者の交流の機会を創出する

寄付者へのメッセージ

全国の皆さまからのご支援に、心より感謝申し上げます。震災から月日が経過し、必要とされる支援の形も変わりゆく中で、2017年に新たな活動拠点を設け、親子で集える居場所を作りました。その活動が、立ち上げ当初から現在のような安定した活動になるには、皆さまのお支えが不可欠だったと感じています。震災を経験し、または震災後に生まれ、激動の復興期の中で成長してゆく子どもたちが、たくましく、そして優しく育っていけるよう、これからも子どもたちを見守っていきたく思います。



古野 安寿子